

(別添3)

**【高島町】**  
校務DX計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. クラウドサービスの活用

本町では、「Google Workspace for Education」や保護者連絡アプリを取り入れている。児童生徒の出欠確認・学校から保護者への連絡・職員間の情報共有等において、クラウドサービスを用いたことで、業務の効率化、時間の有効活用につながっている。

しかしながら、学校便り等未だ紙ベースであるものも多く、アプリケーションの活用ができていない部分もある。課題を把握するとともに、引き続き好事例や先進的事例に関する情報を提供し、校務DXが推進されるよう継続して支援していく。

また、現在オンプレミス型で運用している校務支援システムについても、全国の先進自治体の動向を調査しながら、更新時期(令和8年6月)に合わせてクラウド化の検討を進める。

2. FAX及び押印の見直し

本町では、校務系内部ネットワーク内に「共有フォルダ」を構築し学校間のデータの授受に活用している。また、教職員一人一人に「Google Workspace for Education」のアカウントを付与し、外部との連絡やGoogleサービスを利用したデータの授受等に活用しているため、FAXの利用が減ってきている。緊急時や学校教育ネットワークの不具合時など、FAXの方が効率的な場合を除き、FAXの原則廃止に向けて継続的に働き掛けていく。

また、「委員会と学校」「学校と保護者」間で押印を求める文書についても減少傾向である。今後も教育委員会で押印を求める業務や書類の見直しを図っていく。

3. 生成AIの活用

生成AIは教材や研修資料、保護者向けの文書のたたき台作成等長時間かかる資料作成において、活用が期待されているものの、町内の小中学校において積極的な活用が進んでいない状況も見られることから、生成AIを活用した校務効率化に取り組めるよう検討を行う。